

科目名	基礎演習(4) (学科/商)		
担当教員	吉永 心一 (ヨシナガ シンイチ)	単位数	4単位
開講期間	春学期/秋学期	授業形態	演習
使用言語	日本語	開講学年	1年次のみ
開講学科・カリキュラムコード※	商SS1		
資格科目			
授業概要	<p>この演習では、学生生活を送る上で必要となる知識や情報、さらに様々な技術を身につけることを目標とします。主な目標は次の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業や演習の取り方、学内の諸サービスの利用方法などを知ること 2. 「読むこと」「書くこと」「調べること」「伝えること」などの技術を身に付けること 3. 自分で問題を「見つける」力と「考える」力を身に付けること <p>また、この演習を通じて、次のような「テーマ」についての理解と考察を重ねることも目標とします。</p> <p>テーマ (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化問題 ・ AIの進化とAIとの共存 ・ LGBTQI など ・ 熊本のような問題 <p>1年を通して、これまでの「答えを出す」学びの姿勢から「考える」学びの姿勢に変われることを希望します。</p>		
到達目標	<p>演習を通じて身に付けた知識や情報を、ゼミの他の学生に「伝える」力の修得をめざします。演習を進めていく中で、グループごとの討論や報告を実践していきます。その中で、グループ内でのやり取りやコミュニケーションを通じて、他の学生さんとの協調・協働する力を身に付けていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習を通じて身に付けた知識や技術を生かして、物事を「考える」力とそれを他の学生さんに「伝える」力を身に付けます。 ・ 一つのテーマについて、レジュメを作成し、最終的に報告をするという、「総合力」を身に付けていきます。 		

カリキュラム学科 2025年度 春学期 学部 商学部 商

商学科DP		関与度
1	企業をはじめとする組織の諸活動について、その活動の運営・管理や維持・発展について考察するために必要となる知識や理論を習得している。	
2	企業をはじめとする組織の諸活動について、その社会的貢献や責任、歴史や環境等と関連づけて理解したり、文化的多様性の存在を理解したりする能力を身につけている。	
3	柔軟な適応力や総合的な判断力、確かな実践力を身につけ、高いコミュニケーション能力を有して他者と協働することができる。	◎
4	企業をはじめとする組織の諸活動について、問題を発見し、その解決に必要な多様な情報を収集・分析することができる。さらに、一定の根拠に基づき、複眼的・論理的に思考することによって、説得力のある分析や解決策を提案できる。	○
5	知的好奇心、協調性やリーダーシップ、自己管理能力などを兼ね備え、生涯を通じて自律的に学び続けることができる。	△

授業内容	
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修方法、授業の受け方、試験・レポートなどの取り組み方など ・ 学内諸施設、各種サービスの利用法など
第2回	<p>図書館ガイダンス (予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の蔵書、各データベースなどの利用法 ・ 図書館内の各施設の利用法
第3回	<p>学び方① ノートの取り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業、演習などで必要となるノートの取り方を説明する
第4回	<p>学び方② 資料収集、資料整理の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な情報源からの資料収集の方法と、資料の整理・分析方法を説明する

第5回	<p>学び方③ 新聞の読み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の読み方、内容整理の仕方を説明する
第6回	<p>学び方④ レジュメの書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションのために必要となるレジュメの作成法を示す
第7回	<p>学び方⑤ プレゼンテーションの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料を使ったプレゼンテーション方法を示す
第8回	<p>テーマ学習① 少子高齢化問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化問題が、政治、経済、社会、文化等様々な分野に影響を与えていることを紹介する
第9回	<p>テーマ学習② AIの進化とAIとの共存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在のAIの普及状況を踏まえて、今後のAIの進化とAIとの共存の可能性を示す
第10回	<p>テーマ学習③ LGBTQI+</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性自認、性志向などの問題を踏まえて、LGBTQI+の現状と課題を説明する
第11回	<p>テーマ学習④ 障がい者問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障がい者」という呼称の問題を踏まえて、「合理的配慮」についての問題を説明する
第12回	<p>テーマ学習⑤ 民族問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「民族」の意味を示した上で、いくつかの「民族問題」を取り上げて、その問題のポイントを説明する
第13回	<p>テーマ学習⑥ 熊本の様々な問題（流通、金融、交通など）</p>
第14回	<p>テーマ学習⑦ 熊本の様々な問題（ハンセン病問題、水俣病など）</p>
第15回	<p>読書感想文について 春学期の総括</p>
第16回	<p>秋学期のスケジュール確認、読書感想文集の配布 課題研究（1）商学科の開講科目の中から（商学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通、情報、会計などの系列の開講科目を取り上げて、講義概要と関係する諸問題を示す
第17回	<p>課題研究（2）商学科の開講科目の中から（経営学専攻）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営、金融、会計などの系列の開講科目を取り上げて、講義内容と関係する諸問題を示す
第18回	<p>課題研究（3）熊本地域の様々な問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣病、ハンセン病問題などを取り上げ、問題発生の経緯と問題のポイントを示す
第19回	<p>課題研究（4）AIとの共存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIと共存する時代を視野に、人間がどのような役割を果たせるのか、その可能性を検討する
第20回	<p>課題研究（5）人権問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで取り上げた人権問題について、解決のための取り組みや今後の課題を検討する
第21回	<p>グループ学習（1）プレゼンテーションのテーマ決定</p>
第22回	<p>グループ学習（2）レジュメ作成</p>
第23回	<p>グループ学習（3）プレゼンテーションの準備</p>
第24回	<p>プレゼンテーション1回目</p>
第25回	<p>プレゼンテーション2回目</p>

第26回	レポート作成 (1) レポート作成の流れ ・プレゼンテーションのレジユメを基に、レポートの構想を考える	
第27回	レポート作成 (2) レポート作成 ・レポートの構想を踏まえて、主張点を検討する ・manabaでレポートを提出	
第28回	レポート学習 (3) 提出レポートの内容検討 ・提出されたレポートの内容を再検討する ・アンケートにより得られた他のグループからの意見も考慮する	
第29回	レポート学習 (4) 全てのグループのレポート検討 ・すべてのレポートを総括する ・全体的なレポートの傾向やグループごとの特徴を明らかにする	
第30回	総括 ・一年間の学習内容を振り返る ・それぞれのテーマについての内容を総括する	
事前事後学修(具体的な内容及び必要な時間)	・次の回で学ぶ内容について、事前にmanabaでアンケートを行います (0.5時間) ・その回の内容についての意見・感想をmanabaで提出してもらいます (0.5時間) ・その回の内容に関する課題をmanabaで出しますので、次回までに提出してもらいます (3時間)	
試験や課題に対するフィードバック方法	・提出する課題、レポートなどは、次回までにコメント付きで返却しますので、自分の理解度や表現力の確認を行ってください	
アクティブ・ラーニング	PBL (課題解決型学修) / プレゼンテーション / ディスカッション、ディベート / グループワーク	
実務経験を生かした具体的な授業内容		
学修支援システムLMS (manaba) の活用	manabaでのレポートの回収 / その他manabaの機能の活用	
受講上の注意点	・遅刻、無断欠席をしないように習慣づけましょう ・途中で休憩を入れますので、90分の時間の過ごし方を早く身に付けましょう ・意見や感想に「正解」はありませんので、気づいたこと感じたことは言葉にするトレーニングをしましょう	
教科書	資料を適宜配布します	
参考文献		
成績評価方法		評価割合
A.定期試験		0%
B.レポート		0%
C.小テスト		0%
D.発表(プレゼンテーション等)		50%
E.平常点・授業への貢献度		50%
F.その他		0%
成績評価についての補足		
担当教員との連絡方法	manabaの個別指導コレクション / 大学アカウントのEメール (@kumagakuのアドレス)	
連絡方法 (その他)		
添付ファイル		

※カリキュラムコードは、各学科の群 (分野)、必修か選択、開設学年を示しています。詳細は履修登録ガイドを参照してください。